

# 新 町長 挨拶

町長 佐藤 安彦



## 山郷発刊に寄せて

緑したたる季節となりましてが、皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、4月9日付けで第16代南関町長に就任させていただきましたが、これまでの南関町の歴史や貴重な文化、町政を引き継ぎ、南関町の更なる発展を目指して全力で町政運営にあたるとともに、南関町の魅力を全国に発信していきたいと考えております。

長年の課題でもあった熊本県の公共関与安定型最終処分場も来年秋の完成に向

けて進められておりますが、今後は、安心安全な施設運営が行われる中で、地域に役立つような振興策を推進し、全国のモデルとなるような環境教育施設にしていかなければなりません。

南関町においては、全国の多くの市町村も抱えている人口減少や少子高齢化の問題、基幹産業である農業をはじめとする産業の低迷、町庁舎、公民館の建て替え、平成29年3月に閉校が進められていた南関高校跡地の活用などと大きな課題や問題も残されております。

しかし、このようなことは、南関町だけではなく、どの自治体でも直面していることであり、これからは、南関町に一番合ったやり方、いや、南関町にしかできないやり方で、地域住民の皆様が「本当に南関町に住んでよかった」と思っていたけるような誇れる町づくりを実現するために、町議会とのしつかりとした協力体制を確立していかなければならないと考えております。

私は、「産み育てやすい環境の整備」「住む場所と働く場所の確保」「高齢者や障がいがある方も安心して暮らせる環境の整備」を町づくりの3本の柱として、定住自立圏構想など近隣市町との連携を図るとともに、地域住民の皆様の声を反映できる開かれた行政運営に取り組みんで参る所存でございます。

町議会におかれましても執行部との三元代表制で、それぞれが独立の立場とは言え、厳しさを増す行財政の中で住みよい町づくりのために、お互い切磋琢磨しながら町発展のためご尽力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

平成18年3月、降って沸いたような県による産業廃棄物処分場建設の表明、驚きと戸惑い、そして怒りが交錯、黄色スズメバチの巣を突いたような驚きとなり、忘れる事の出来ない大変な時代から9年、さまざまな問題がありました。地元住民の皆様方の苦渋の選択による容認とご理解もあり、クローズド無放流型による処分場の建設、そして地元振興策と順調に進んでおります。

# 新 議長 挨拶

議長の 酒見 喬



## 町の発展を願い心新たに

今年2月の町長、町議会議員の選挙で、新町長、新議員も含め議会も一新まちづくりとその発展を願い、12名の議員が心を1つにして頑張つてゆく所存でございます。

少子高齢化の進む時代背景の中で、お年寄りが安心して過ごされる施設の建設も急務です。28年度末に廃校となる南関高校を県から譲り受け、町民のための施設となる事を考えなければなりません。

また、忘れてならないのが町の基幹産業である農業の問題でございます。中山間地に位置する私たちの町でも農地の荒廃が進んでいます。TPPやグローバル化による農産物の輸出入が進む中で、此の町の農業をどのようにして維持してゆくのか、大きな問題でございます。時代が求めている農地集積を進め、意欲ある農業後継者に農地を託す事も考えなければなりません。

いずれに致しましても限られた財源の中で、議会も執行部も同じ方向性を持って頑張つていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。